

公益財団法人 8020 推進財団
令和 3 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：地域密着 8020 推進事業（口腔機能低下症）

2. 申請者名：一般社団法人福岡市歯科医師会 会長 神田 晋爾

3. 実施組織：一般社団法人福岡市歯科医師会

4. 事業の概要

日本における要介護認定者数は令和 2 年 3 月末現在で 699 万人に達し、前年度の約 1.6% の増加となっている。福岡県においても約 27 万人にも昇る。これら要介護者の口腔ケア、口腔機能の管理は十分ではなく、介護者、要介護者の口腔に対する意識も低い。今年度も継続事業の一環として、入院患者や要介護者の口腔内に見受けられる症状にポイントを絞ったパンフレットを配布し、医師会、薬剤師会、行政にも協力を仰ぎ、様々な場所や他職種連携会議の場において配布し口腔の大切さを周知した。また、地域における出前講座や施設の介護者への研修などを実施し、8020 運動の認知度を高めると共に、口腔機能の重要性について周知を行い、早期に気づきを与え口腔の定期管理、かかりつけ歯科医へと結びつけるようにした。

今回も事業を通じ、超高齢社会を迎える中で、健康寿命の延伸のために 8020 運動の周知を行うと共に、フレイル予防のための「オーラルフレイル」の周知、認知症の予防と歯科との関わりについて広く啓発を行い、地域における住民が自ら歯科、口腔の大切さに気づき、行動変容を誘発させることを事業の目標として行った。

5. 事業の内容：

昨年度に引き続き、福岡市内における大学病院、私立病院、区役所、公民館、訪問看護ステーションや看護大学や各地区で行われるオーラルフレイルの研修会、いきいきセンター、介護施設などで作成したパンフレットの配布と紹介を行い、口腔ケアの重要性を訴えた。

また地域で行われる出前講座でも同様に周知を行ったほか、市薬剤師会における研修会で口腔の健康が全身の健康に繋がることを訴え、薬局に来る患者さんにも周知を図るべく、リーフレットの配布と設置を依頼した。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

これまで同様に、地域住民の集まる場所にパンフレットを設置することで、多くの地域住民の目に止まる状況ができ、歯科医師会への問い合わせも増えるなど、継続的に行うことで徐々にではあるが口腔ケアへの意識づけが出来つつあると思われる。ただ、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で出前講座等の開催も減少しており、対面で口腔の大切さを訴える場面が少なくなっている。Web を利用した研修や出前講座についてもネット環境が整っていないなど実施出来ないことも多かったが、本会では、介護施設スタッフ向けに口腔ケアに関する研修動画を作成してオンデマンドで配信し、要介護者に対して口腔ケアを行う上での相談会をオンラインで実施し、現場での困りごとなどを解消することが出来た。これにより口腔内を清潔に保ち口腔機能を維持することが全身の健康に繋がり、感染症予防にも繋がるという啓発を行うことが出来た。また、今後は、ここで出た意見などを反映させ、口腔ケアを行う際に使用する器具の選択法などのリーフレットを作成し、更なる事業充実を目指したい。

啓発には継続して行うことが必須と思われるので、今後も積極的に Web も併用しながら出前講座等を行い、口腔の大切さを周知していこうと考えている。